

第41巻 第2号 予告

特集「受動喫煙(仮題)」

巻頭言	浅野牧茂(東京医科歯科大学)
受動喫煙の科学	大久保千代次(公衆衛生院)
生体への急性影響	村松常司(愛知教育大学)
小児への慢性影響	浅野牧茂(東京医科歯科大学)
成人への慢性影響	箕輪眞澄(公衆衛生院)
物理的保護対策	池田耕一(公衆衛生院)
社会的保護対策	星 旦二(公衆衛生院)

第41巻 第3号：特集「地球環境問題(仮題)」

第41巻 第4号：特集「地方衛生研究所(仮題)」

編集後記

都道府県ごとや都市別の住みやすさが発表されると、各自治体からさまざまな反応があるという事です。暮らしている主体は、そこに住む人たちであり、暮しやすさは、大きく主観的なものでしょう。大都会、中小都市、田舎と考えた場合、それぞれなりに暮らしやすさ、暮しにくさを備えています。暮らしにくい部分を解消し、暮しやすさを高めていくことが自治体に求められるのですが、暮しやすさとは何かをおおいに議論する必要があります。

公衆衛生の目的は、住民の健康だと言いますが、それが最終目的であってはならないのです。健康を守ることは、健康そのものが目的ではなく、健康になることによって、楽しく暮らす、幸せに暮らすということなのでしょう。

今回は、大都会でのお年寄りに、さまざまな視点から焦点を当てた特集として、その暮しを考えてみることにしました。高齢者対策を単に、疾病予防や寝たきり予防、ケアの必要な人への援助などとしてだけでなく、高齢者の暮しということを基盤においた、よりよい生活の実現として捉えることへの問題提起ということでもあります。そこに暮らしている人たちの暮しやすさとは何かを住民と共に考え、それを視野にいれながら、暮しを支える活動が公衆衛生に求められているのではないのでしょうか。いつか地方でのお年寄りの暮しに焦点をあてた特集も組めたらと思います。そのようなことを思いながら今回の特集を読んでいただければありがたいと思います。ご意見やご感想をお寄せ下さい。

(岩永 俊博)